

【 前 回 】

◎現状／課題
<p>○廃棄物エネルギーの利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小規模施設（鎧潟、豊栄）では、発電能力が低い、または発電設備が設置されていないため、十分に廃棄物エネルギーを活かしていない。 ● 熱エネルギーの利用先が、プールや温浴施設に限られている。 <p>○発電した電力の活用先</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物発電は、二酸化炭素排出量が少ない電力であるが、これまで単純な売却により、地域外で消費されていた。 ● 今年度、次の事業により発電電力の地産地消を開始し、地域の低炭素化を図っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟市地域新電力事業 （民間業者と市が出資する地域新電力を通じて、新田清掃センターの発電電力を市有施設に供給。） ・ 発電電力の自己託送モデル実証事業 （東北電力の送電線網を利用して亀田清掃センターで発電した電力を市有施設に送電）
◎今後の方向性
<p>○廃棄物エネルギーのさらなる利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発電能力の向上 施設統合により更新施設を大規模化し、効率的な発電により発電能力を向上。 ・ 熱エネルギーの活用検討 地域活用や産業振興など、熱エネルギーの活用方法を検討。 <p>○廃棄物発電の地産地消の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市有施設に限らず、市内の民間施設も含め、送電先の拡大を検討する。



【 修 正 】

◎現状／課題
<p>(現 状)</p> <p>○ 廃棄物エネルギーの活用として、新田清掃センター、亀田清掃センター、鎧潟クリーンセンターでは発電、新田清掃センター、亀田清掃センターでは隣接する温水プールや温浴施設に熱供給を行っている。</p> <p>○ CO₂排出量が少ない廃棄物発電は、これまで単純な売却により、地域外で消費されていた。</p> <p>○ 令和元年度から、廃棄物発電の地産地消を開始し、地域の低炭素化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※新潟市地域新電力事業 （民間業者と市が出資する地域新電力会社を通じて、新田清掃センターで発電した電力を市有施設に供給。） ※発電電力の自己託送モデル実証事業 （東北電力の送電線網を利用して亀田清掃センターで発電した電力を市有施設に供給。）
(課 題)
<p>○ 鎧潟クリーンセンターや豊栄環境センターのような小規模施設では、発電能力が低い、もしくは発電設備を有していないため、十分に廃棄物エネルギーを活かしきれていない。</p> <p>○ 熱の供給先が、プールや温浴施設に限られている。</p>
◎今後の方向性
<p>○ 施設の更新・統合により、全ての焼却施設で廃棄物発電を行い、発電量の向上とともに低炭素社会を推進する。</p> <p>○ 廃棄物発電の利用先を市有施設に限らず、市内の民間施設にも拡大し、廃棄物発電の地産地消による地域の低炭素化を進める。</p> <p>○ 熱の供給先を拡大し、地域活用や産業振興など、多用途利用に向けた検討を行う。</p>